

探究のプロセス

高校・大学教育の三位一体改革

【新しい学力 3つの柱】



【高校教育改革】

・「主体性等」をどう育て、どう評価するか？

【大学入学者選抜改革】

・「主体性等」に関する情報を選抜でどう扱うか？

【大学教育改革】

・高校のデータを活用し、効率化を図れないか？

アドミッション・ポリシー

(入学者受入れ方針)

例：北海道大学

学士課程教育を受けるにふさわしい学力，すなわち基礎知識・基礎技能・数理能力・語学力・理解力・読解力を備えた学生，また，大学入学以降の学びで必要な**問題解決能力・創造力・倫理性・思考の柔軟性・コミュニケーション能力・論理的思考力・リーダーシップ**，人間性や**学ぶ意欲**などを備えた学生を，多様な選抜制度により受け入れています。

大学一般選抜 評価例

主体性等評価の例 (札幌大学)

項目	内容	配点
生徒会活動	クラス役員以上	1点
ボランティア	活動歴	1点
課外活動	1学年以上継続	1点
英語関連試験	英検2級以上	4点
探究活動	課題発見・情報収集・分析表現	15点

探究活動評価例

項目	3点	1点
課題発見	仮説・調査項目が立てられている	仮説か調査項目が立てられている
情報収集	複数の情報源から整理分析の方法が示されている	限られた情報源から収集。まとめるまで至らない
まとめ・表現(1)	成果を多様な方法で表現している	明らかにになったことを表現している
まとめ・表現(2)	自分の考えや新たな課題をまとめている	左記のいずれかがまとめられている
振り返り	どのように変わったか 今後活かせること	今後活かせる展望まで至らない

「探究」の構造

課題
設定

情報
収集

整理
(編集)
分析

まとめ
表現

テーマ決め
リサーチクエ
スション
仮説

二次情報
基礎情報
一次情報

分析
考察結果
新たな問
い

定量
表・グラフ
定性
写真・図

「自分の課題」を知る

目標

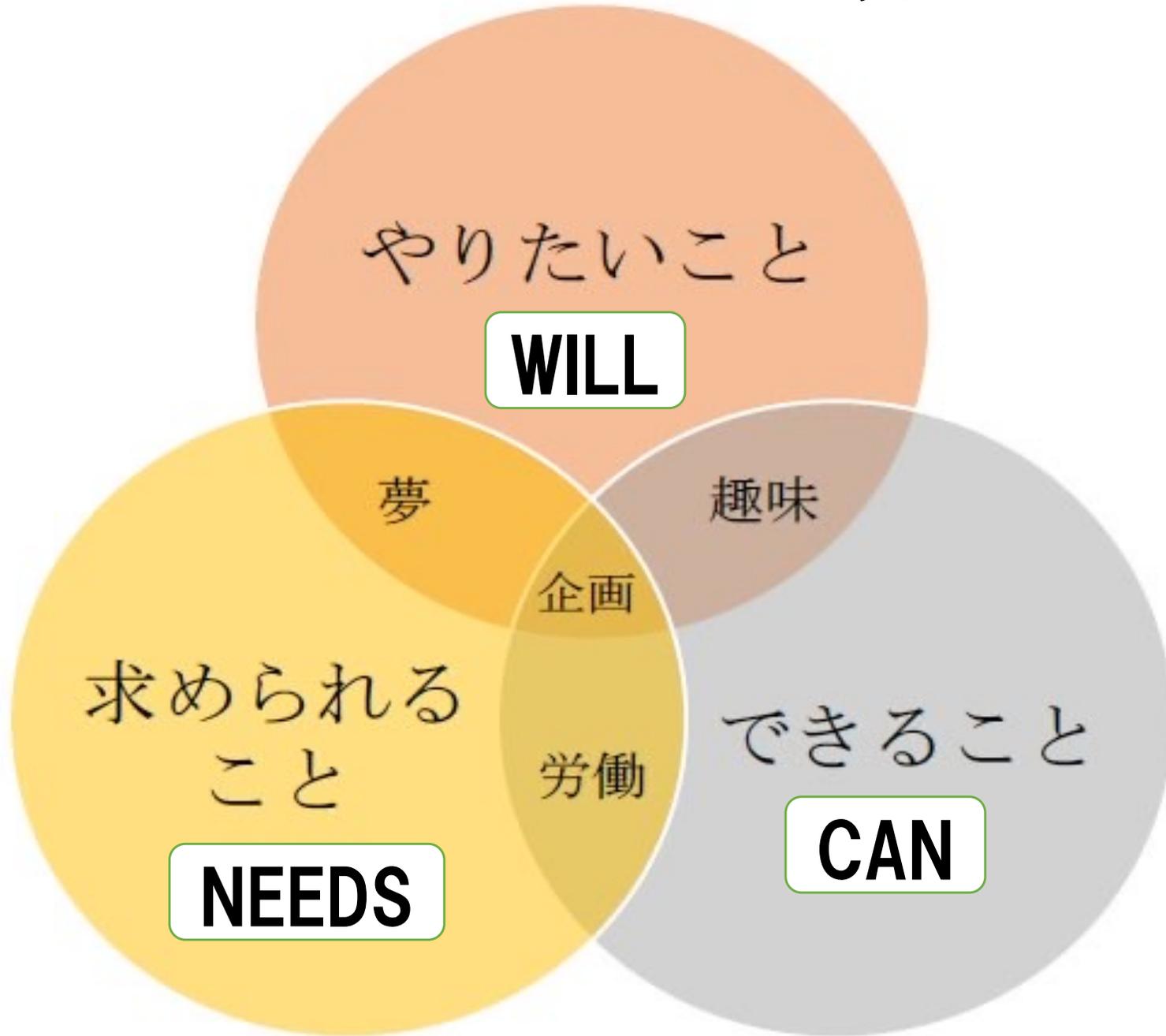
課題・問い

現状・立ち位置

まず自分が
どんな所に
いるか？



望ましい課題設定



「リサーチクエスチョン」とは？

～研究の根底にある「問い」～

「少子化」をテーマ(研究範囲)とした場合

リサーチクエスチョン：少子化が進んでいるのはなぜか(研究の根底にある疑問)

論文の目的：少子化の理由を明らかにする(研究の方向性)

仮説：産休制度を充実すれば、少子化が改善される(リサーチクエスチョンの暫定的答え)

結論：産休制度の拡充により、少子化が改善される可能性が示唆された

「リサーチクエスチョン」の留意点

- 1 求められる (NEEDSのある) 問いであるか
- 2 未解明の問いであるか
(先行研究を徹底的に調べる)
- 3 答えが出る (検証可能な) 問いであるか
(研究期間、研究方法・費用等の吟味)

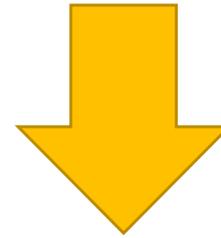
「リサーチクエスチョン」のブレイクダウン(分解)

- 1 問いの分解 複数の原因 複数の結果**
(例;晩婚・非婚化 貧困化 子育て環境)
- 2 時間的な研究・調査 解明**
(歴史的事実 過去・現在との比較など)
- 3 空間(場所的)な研究・調査 解明**
(国内 市町村 都道府県 国別 大陸別など)

「仮説」のイメージ



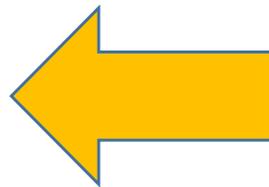
空き巣に入られた
手掛かりを探す
足跡が27cm
盗まれたもの
残留物



犯人像

全くゼロからでなく
絞り込み焦点化する

「仮説」
を立てる



「仮説」の条件

- 1 検証可能であること**
(条件などを変えることで検証が可能に
例；私の住む町の中で、昨年では)
- 2 因果関係が明示されていること**
(例;晩婚化が原因で少子化
貧困化が晩婚化に影響する可能性)

「情報収集」

二次情報	本論文	全体の骨格を知る 何がどこまで分かって 何がまだ分かってないか
基礎情報	データ 白書	過去と現在の比較 (魚の目) 地域特殊と世界一般の比較 (虫の目、鳥の目)
一次情報	実験 取材 経験	一次にかけた時間と内容 が研究の独創性と価値 (自分達だけの目)

二次情報の収集（先行研究・本）

グーグル・スカラー	論文・学術専門誌・要約 書籍など多くの分野の資料
サイニィ・アーティクルズ	日本の学術論文、図書、雑誌の データベース
ウェブキャット・プラス	日本で出版された本の検索 文章から連想して本を検索可能
想ーイマジン・ブックサーチ	調べたい内容に関する単語や文 章から連想される項目を表示

「解決する」とは？

- とりあえず不都合のない程度に収める
- 今より悪くならない状態を維持する
- 影響の及び方に明らかな不平等がない

自分の課題研究記録 ポートフォリオ例

〇〇の分野の中でも〇〇はなぜ起きるのか（**研究テーマとリサーチクエスチョン**）に興味を持ち、〇〇に要因（関係）があるのではないかと（**仮説**）と考え、〇〇や〇〇から情報を収集（**二次情報**）するとともに自分で〇〇について調査（**実験**）した（**一次情報**）

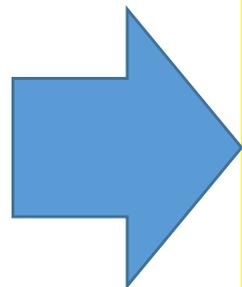
その結果、〇〇ということから〇〇ということが分かり（**まとめ・考察**）新たに〇〇という疑問も生まれた。（**次の探究ループ**）この活動を通して〇〇ということが身に付いた（**変容があった**）（**振り返り**）



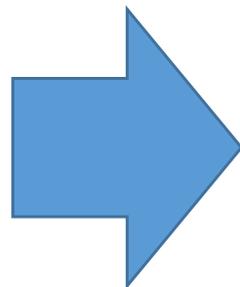
新たな気づき

⇒ 自己の拡大

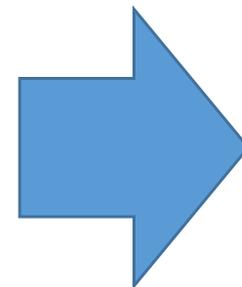
課題設定



仮説



研究方法



調査実験



縮小教育と拡大教育

最初は小さいが
確実に増加

長い社会人期間
自走で伸び幅増大

生徒が新たな学びを見つける

教師 < 生徒

高校

大学

社会人

新たな学びを評価=加点法
自信・自己有用感増

縮小教育と拡大教育

増やし方(新たな学び)
が分からない

長い社会人期間
知識陳腐化

教師が自分の持っている
こと教える

教師 > 生徒

高校

大学

社会人

出来なさを評価=減点法
自信・自己有用感減

「問い」と「対話」の重要性

問わなければ考えられず
語らなければ形にならず
聞かなければ語ることは
できない

「考えるとはどういうことか」 梶谷 真司

問うことを学ばないと
ころでは
考えることも学べるは
ずがない

「考えるとはどういうことか」梶谷 真司

「探究」とは？

→「**入力**」した情報を

「**広げたり**」「**深めたり**」して

「**出力**」につなげること

「考えるとはどういうことか」梶谷 真司

追われてやるのは、義務。
追いかけてやれば、夢。
やることは同じでも、
考え次第で苦勞にも楽
しみにも変えられる。

籙禮 泰永 (メンターバンク社長)

「思考の質」は
「問いの質」によって決
まる

「思考」の動機と力は
「自分の問い」であるか
どうかで決まる

自分は何に惹かれ、何に興味があり、自分の中心にあるものは何か？

自分のことを良く知ることによって自分の「問い」が生まれる

与えられた問題に答える力
は「考えさせられる力」

「自分の問い」がなければ
「考える力」を育てていくこ
とはできない

学校は「考えないこと」を教
えている

「考えるとはどういうことか」 梶谷 真司

考えを言語化したり、
他者に語ることで
自分にとって
「明確なもの」になる

「受け入れる」ではなく
「受け止める」

「理解する」ではなく
「受け止める」

聞く → 場を共有し存在
を受け止める

「考えるとはどういうことか」 梶谷 真司

○これまでの授業
「自分の考え」は言わなくても
も良い

→言っているのは「正解」「授
業の意図に沿うこと」

「考えるとはどういうことか」梶谷 真司

○これまでの授業での質問

→「自分の分からないことがあることの表明」

→「認めたくない」「知られたくない」

→「黙っておこう」

「考えるとはどういうことか」梶谷 真司

**俺とおまえは意見が違う
だからお互いに存在価値
があるんだ。**